

白血球増多を伴った胆管細胞癌の1例

猪狩 洋介¹⁾ 石田 哲²⁾ 岩田 郁²⁾
花野 貴幸²⁾ 平野 玄竜²⁾ 竹山 康章²⁾
横山 昌典²⁾ 入江 真²⁾ 釈迦堂 敏²⁾
早田 哲郎²⁾ 向坂彰太郎²⁾

1) 福岡大学病院卒後臨床研修センター

2) 福岡大学医学部消化器内科

要旨：55歳の男性。肝腫瘍精査のため入院となった。入院時検査所見で白血球が増加していた。肝腫瘍は精査の結果、胆管細胞癌と診断された。白血球増多に関しては感染症を考え精査を行い、抗生剤投与も行ったが、経過から感染症は否定的となり、腫瘍随伴症候群が疑われた。血中の顆粒球コロニー刺激因子は高値であったが、腫瘍組織における免疫染色では陰性であった。本症例では、白血球増多の他、CRP 上昇を伴っており、血中インターロイキン-6 が高値であったことから、癌免疫に関連するリンパ球やマクロファージ由来のサイトカインが、白血球増多や CRP 上昇といった腫瘍随伴症候を引き起こしたものと考えられた。

キーワード：胆管細胞癌，白血球増多，腫瘍随伴症候群